六月は全国的な「牛乳月間」だったそうで、牛乳の消費拡大を呼びかけるポスターで、牛乳の消費拡大を呼びかけるポスターで、牛乳の消費拡大を呼びかけるポスターで、牛乳の消費拡大を呼びかけるポスターを手房、出版された。タイトルは『乳がんと牛乳がん細胞はなぜ消えたのか』(径と牛乳がん細胞はなぜ消えたのか』(径と牛乳がん細胞はなぜ消えたのか』(径と中乳がんや前立腺がんのリスクを高めることを論証している。

酪農に構造転換の勧め

批判と非難の嵐が巻き起こったという。し初版の出版は二〇〇〇年。医師などから

部も売れる国際的ベストセラーになった。この本は世界十六カ国で出版され、四百万国王立医学協会の終身会員に推挙された。含む医学関連書で医学に貢献した功績で英かし、プラント氏は二○○五年、この本をかし、プラント氏は二○○五年、この本を

業界は無視・黙殺してきた。まれたこともある。ほとんどの場合、牛乳内で多数出版されている。雑誌で特集が組牛乳に警鐘を鳴らす本はこれまでにも国

ところが、牛乳・乳製品をなるべく避け ところが、牛乳・乳製品をなるべく避け をようにという趣旨の内容がある『病気に ならない生き方』(初版発行二○○五年七 月)が百万部を超えるベストセラーになる と、業界はさすがに黙っていられなくなり、 と、業界はさすがに黙っていられなくなり、 と、業界はさすがに黙っていられなくなり、 を大スポンサーとする主要メディアは は示されなかった」と業界側は再反論した。 さしたる関心を示さず、大きな論争には発 さしたる関心を示さず、大きな論争には発 ところが、牛乳・乳製品をなるべく避け

した現実と向き合わなくてはならない。得力を持たなくなる。北海道の酪農はこう

信頼すべき学術雑誌に掲載された論文から個人攻撃を受けたというプラント氏の次の個人攻撃を受けたというプラント氏の次の指摘は示唆に富んでいる。「BSE(牛海綿状脳症)と変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の関係について、私たちイギリス国民は何度だ。この『科学的証拠がない』というプラント氏は「私にはどうしてもわからないことがひとつある」と謎かけをする。ないことがひとつある」と謎かけをする。

に通じる。 は通が情報を支配するのか、という問題 ははなかったのか?」と。彼女の問いか 情報は伝えられていなかった。「なぜ、誰得られた。自分が乳がんになるまでそんな

大量生産と大量消費を前提とした工業的な酪農は今後、成り立たなくなるだろう。落ち、牛乳・乳製品は高級品化していく。落ち、牛乳・乳製品は高級品化していく。として牛乳を位置づけるべきだと訳者の佐藤章夫・山梨医科大学名誉教授は提案する。地球温暖化は、作物が育ちにくかった寒や地の農業形態の選択肢を広げるに違いない。中長期的な視野に立ち、酪農から畑作・の構造転換を農政は見据えるべきだ。代量の輸入穀物飼料に依存する現代酪農は食料安保上も不合理である。『乳がんと牛乳』のような本に酪農の将来を考えるきっかけのではなく、酪農の将来を考えるきっかけとしてとらえてはどうだろうか。

△